

樹木園にタコ！？

ザクロの若い果実
(7月中旬に撮影)

文と写真◎兎嶋 美穂 Kojima Miho

木材加工・特性研究領域

森 林総研の敷地内にある樹木園には、水辺風致樹木、サクラ、タケ・ササ、暖

温帯樹木、外国産広葉樹、シイ・カシ類、冷温帯樹木、垂寒帯樹木、外国産針葉樹など、研究材料として利用するためのさまざまな樹木が植栽されています。それらの樹木の花や果実の中には、楽しいあだ名を付けたくなるような形をしたものもありますので、みなさんにご紹介したいと思います。

ま ずは、西南アジア原産の落葉樹ザクロです。6月ごろ、鮮やかな朱色の花が咲いた後、タコそっくりの形をした若い果実が現れます。それはまるで、お弁当でおなじみのウインナーのようです。この若い果実はだんだんと大きくなっていき、秋ごろになると「タコ星人」に育ちます。

つ ぎにタコ星人の兄弟のような形をしているのは、ロウバイ(中国原産の落葉樹)の果実の「イカ星人」です。ロウバイは、冬に咲く花の代表種の1つで、ロウ細工のような薄黄色の花を咲かせたあと、果実が成熟します。冬へ向かう季節には、少し干からびたイカ星人を見つけることができるかもしれません。

最 後に紹介するのは、北米やキューバ原産の常緑樹カルミアです。小さな蕾は、金平糖をはじめ、月面着陸したアポロ宇宙船にも形がちよっと似ています。花の色はピンクがより鮮やかなものもあります。

さ て、いかがでしたか？ みなさんもぜひ、お散歩をしながら樹木の楽しいカタチを探してみてください。◆

ロウバイの果実
(5月下旬に撮影)カルミアの蕾と花
(5月下旬に撮影)
花は4～6月が見ごろ